平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	航空電子機械工学特別研究 (Aeronautical, Electronic & Mechanical Engineering Studies) 【若林研究室】			授業コード	M511706
担当教員名	若林　大輔			科目ナンバリングコード	M40303
配当学年	1・2	開講期	通年		
必修・選択区分	必修	単位数	10		
履修上の注意または履修条件	特になし。				
受講心得	英語(文法、読解、ライティング、会話)とパソコンによる文書作成、表計算、スライド作成、プログラミングの技術を授業時間外で習得するよう努力してください。 研究活動の状況を自身で把握し、担当教員に対し積極的に報告・相談・連絡してください。 研究成果の発表のため国内外の学会に積極的に参加してもらいます。大学院在籍中に学術雑誌への査読付論文掲載を目標にしてください。 大学院生として、学部生の研究活動も積極的に関与してください。				
教科書	なし。				
参考文献及び指定図書	受講者の自発的な要望に対し、適宜紹介します。				
関連科目	電磁気学特論A、電磁気学特論B、航空電子機械工学特別演習Ⅰ・Ⅱ				

授業の目的	研究活動を通じ、独立した研究者(大学院卒業、修士号取得者)となるための知識と技術を習得することが目的です。
授業の概要	本科目では、研究テーマ決め、研究計画立案、文献調査、予備実験、実験、データ分析・まとめ、担当教員への報告と議論、論文作成、学会における論文発表またはその準備、他の研究者との議論など研究活動全般を担当教員の指導の下で行ってもらいます。 研究指導は, 航空機械電子工学特別演習Ⅰ、航空機械電子特別演習Ⅱ及び航空機械電子工学特別研究を通じて日常的に行います。 研究活動は多岐に渡りかつ同時進行で行わなければならないため、下記の授業計画で詳細に記述することは困難である。研究の進捗状況や学会開催時期などを踏まえ、学生と協議しながら進めます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： 研究テーマ紹介・研究テーマ決定および研究打合せ	
第 2 週 ： 研究活動全般	
第 3 週 ： 研究活動全般	
第 4 週 ： 研究活動全般	
第 5 週 ： 研究活動全般	
第 6 週 ： 研究活動全般	
第 7 週 ： 研究活動全般	

第 8 週 ： 研究活動全般	
第 9 週 ： 研究活動全般	
第 10 週 ： 研究活動全般	
第 11 週 ： 研究活動全般	
第 12 週 ： 研究活動全般	
第 13 週 ： 研究活動全般	
第 14 週 ： 研究活動全般	
第 15 週 ： 研究活動全般	
第 16 週 ： 総括	

授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	該当しない	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	毎日欠かさず、研究報告を行うこと。
【知識・理解】	新旧問わず様々な文献を自主的に探し、読み理解すること。
【技能・表現・コミュニケーション】	自身が行っている研究内容を分かりやすく正確に相手に伝えることができる。
【思考・判断・創造】	常に疑問を感じ、その疑問を解消するために納得するまで文献調査・実験を行うことができる。

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等（テスト）	レポート・作品等（提出物）	発表・その他（無形成果）	
【関心・意欲・態度】※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	0点	10点	10点	
【知識・理解】※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。	0点	10点	10点	
【技能・表現・コミュニケーション】※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	0点	15点	15点	
【思考・判断・創造】※「考え抜く力」を含む。	0点	15点	15点	

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	**評価の実施方法と達成水準の目安**
レポート・作品等（提出物）	ここでいう提出物とは、学会参加のための論文や修士論文のことである。 研究背景・目的、実験方法、実験条件、実験結果、考察、参考文献を含んでおり、正確な文章及び図表を使って誰もが分かりやすい工夫がなされているかを目安にします。
発表・その他（無形成果）	ここでいう発表とは、学会発表や修士論文発表のことである。 研究背景・目的、実験方法、実験条件、実験結果、考察、参考文献を含んでおり、正確な文章及び図表を使って誰もが分かりやすい工夫がなされているかを目安にします。